

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会  
地域共生型社会推進事業助成金

## 事業完了報告書（公開用）

### 1、概要

報告日	西暦 2022 年 4 月 27 日
報告者	摺本 圭治
助成団体名 (所属団体名)	NPO 法人地域で創る土曜日夢の学習
団体住所	〒 528-0023 滋賀 <small>都道府県</small> 甲賀市水口町本丸1番20号 水口中央公民館内
団体電話番号	0748 — 70 — 2349
代表者 (助成対象者)	摺本 圭治
助成対象事業	地域における生活支援調査研究推進実践事業
事業（助成）期間	2019 年 4 月 1 日 ~ 2022 年 3 月 31 日
事業費総額	1,001,313 円
助成金総額	1,000,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

#### 注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま [shigakyo@cello.ocn.ne.jp](mailto:shigakyo@cello.ocn.ne.jp) へメールにてお送りください。

## 2、事業内容

### 地域における生活支援調査研究推進実践事業

今回の助成金事業では、当初計画では、生活支援としての通院や買い物支援、日常の困りごと支援を連続講座の開催によってボランティア育成を考えてきました。

しかし、現場での動きを見ていくと、教育活動を中心に活動している夢の学習では難しいと考え、現状の夢の学習ボランティアのできる事から、福祉ボランティアへの導きを考えてきました。この経過は、夢の学習の滋賀県福祉学会での本事業の発表内容から伺うことが出来ます。

#### 1、夢の学習の滋賀県福祉学会での研究内容と実践活動報告

この3年間での発表内容は次の通りです。

令和元年度 「夢の学習のできる高齢者支援事業」

～地域実態に合わせた多様な取り組み～

令和2年度 「高齢者の社会への積極的つながりを創る夢の学習の実践」

～既存のサロン活動の支援から新たなサロン活動開催で学んだ事～

令和3年度 「地域ボランティアから福祉ボランティアへ」

～3年目の成果～

#### 2、実践内容（具体的数値などは、別紙上記発表内容に記載）

##### (1) 令和元年度の実践

令和元年度は、高齢者のスポーツやサロン活動の支援をしながら、年齢やボランティアへの参加状況を知るためのアンケート調査をしました。その結果次のようなことが分かりました。

①自主的に活動しているところでは、ボランティアをしてもいいという方が多い。

②招かれてのサロン活動では、ボランティアをしてもいいという方は少ない。

③高齢化率40%以上のところでは、サロン活動の推進を85歳以上の方が25%あった。

等の結果を得ることが出来ました。

##### (2) 令和2年度の実践

令和2年度には、サロン活動の支援をしていくうちに、様々な工夫が始まりました。各町内の公民館を中心に独自のサロン活動が始まり、コロナ禍でも学習ボランティアからサロン活動支援へのボランティアの増加があり、特に車いすでの体の不自由な方が福祉ボランティアに積極的に参加されている姿が印象的でした。

##### (3) 令和3年度の実践（独自のサロン活動を34回以上展開）

令和3年度は、サロン活動支援から独自のサロン活動の展開により、福祉ボランティアへの参加と活動が積極的になり、その活動も市内全域に広がっていくことになりました。高齢者支援のみならず子育て支援への関りも生まれてきました。この3年間で、独自サロン活動を新設されたり、なくなった地域でサロン活動の復活がありました。

そして、新たなボランティア参加や福祉ボランティアへの参加が30人を上回ったことは、この3年間の大きな成果と言えます。

#### 3、実践活動から新たな構想

上記のことをきっかけに、令和3年度の5月から「健康づくりのHEYA」が誕生してきました。体操、ハンドクラフトや介護保険制度などの福祉に関する講話と茶話会といった活動を通して、地域の見守りに結び付けています。

### 3、事業成果

この3年間を通しての事業成果は、次の3点にまとめることが出来ます。

#### 1、教育ボランティアから福祉ボランティアへの誘いができた。

##### (1) 教育ボランティア

夢の学習は、親子を中心とした社会教育活動を中心に展開してきました。特徴的なのは、その指導者のほとんどが高齢者で担っていることでした。教育ボランティアの登録者は、令和3年度末には680名になっていました。

##### (2) 福祉ボランティア

夢の学習では、ボランティアを通院・買い物・草刈・等の支援に自然に導くため、地域サロンへの支援や出前講座を実施してきました。そのことが、多くの福祉ボランティアへの一步を築けたものと考えています。この3年間、数十回となく繰り返されたサロンへの出前講座や支援、サロン活動の実施によって、多くのボランティアを福祉ボランティアに導けたと考えています。

#### 2、サロン活動の支援の広がりからボランティアの広がりが生まれた。

##### (1) 地域格差の是正

甲賀市においては、サロン活動が実施されているところとそうでないところの地域格差があります。この格差を是正するために、各地域の公民館でのサロン活動を実施してきました。

そこで、幅広い地域からの参加があり、ニーズがあることがわかってきましたが、それでも送迎が必要なところまでは、応じることが出来ませんでした。

##### (2) 各地域のサロン活動支援と関係機関との連携

サロン活動の出前講座が、口コミで広がるにつれ多数の申し出があり、また、合わせてボランティアの登録もありました。このサロン活動での出前講座は、夢の学習のハンドクラフトなどの学習内容、新たに連携が取れた関係機関の講話などでした。

#### 3、自主的・主体的な動きが生み出された。

##### (1) 定例化した公民館でのサロン活動

夢の学習の公民館でのサロン活動が定着した。

##### (2) サロン活動支援の受け入れ

夢の学習の支援が口コミで広がり、依頼が増えてきたことと事務局に約15名の対応する組織が生まれた。

#### 4、新たなサロン活動の開設と「健康づくりの HEYA」が生まれた。

##### (1) 新たなサロン開設

ボランティアの中に、自らの地域活動を振り返りサロン活動を立ち上げる地域が出てきた。自主的・主体的な活動である。一方では、サロン活動を実施している地域で、「体操」「講話」「ものづくり」「茶話会」等を組み合わせた「健康づくりの HEYA」が考えだされてきた。そこで、夢の学習では、サロン活動を合わせた「健康づくりの HEYA」として活動するようになった。

##### (2) 健康づくりの HEYA

令和3年5月から健康づくりの取り組みが、水口地域に実践された、このことがきっかけで、他地域にも生まれることとなった。現在、水口4か所、土山4か所、信楽2か所が活動している。令和4年度は、「ゆめの HEYA」として様々な HEYA が「健康づくりの HEYA」とかかわりを持っていくことになる。

#### 4、今後の課題など

3年間の実践研究で多くの検証が出来ました。

今後の課題として大きく次の4点にまとめることができた。

##### 1、高齢者の居場所づくり（地域とのつながりを保つ）

高齢者の居場所づくりでは、様々な場を考えていく必要があります。（1年目の実践）

（1）高齢者生活支援では、様々な生活の状況を語り合える場

（2）居場所を考える時、年齢や健康状態によった場の設定が必要であること。

①サロン活動のような居場所

②体操、作業、学習を兼ね備えた居場所

③スポーツ活動を通じた居場所（ソフトミニバレーボール・卓球など）

（3）健康づくりから 遣り甲斐や生きがいを備えた居場所

① 地域社会に関わっていきたいが、交通手段がなく遠くまで出かけることが出来ず、自然と家庭に閉じこもり気味の高齢者への社会との関りができる方策

例：①学校への奉仕、家庭での布巾や雑巾づくり

②地産の農産物の販売

③伝統品の作成とフリーマーケットや店での販売等

##### 2、ボランティアの育成（地域とのつながりを創る）

超高齢化社会では、中山間地でのサロン活動の様子を見ていると、健康な高齢者がサロン活動の中心となる役割を担っていることが分かってきた。（2年目の実践）

その理由の一つに、定年65歳、70歳と言われ、健康な住民の多くの住民は75歳でも収入を得るため就労している状況があり、昼間地域に残されたのが75歳以上の高齢者であることから、地域の役員やサロン活動などの中心となる人材がおのずと75歳以上の住民となっていた。

A 地域でのサロン活動のボランティア年齢の1/4が85歳以上であったことから、その実態が伺われる。このことに対する解決策としては、

（1）地域における世代間交流の推進。

（2）地域にボランティア活動の場を設ける

（3）地域福祉課題の実態を明確にしていく。

##### 3、生活支援への導き（目的に応じたつながりができる）

考えられる生活支援が、互助・共助、公助のできる事を整理・理解し、住民自らの動きで課題を乗り越えていく事業を工夫していく。

（1）公助のできる事には限りがあることを意識する。

例えば、独居老人の見守りから介護が必要になり、介護保険が受けられるようになって、それには限界があり、地域での見守り、生活支援が必要になってくること。

（2）公助でできないところを地域で埋めていかなければならない現実

地域課題に沿ったボランティアの育成のための新たな方策として、

「ゆめの HEYA」構想を推進していく。現在、「健康づくりの HEYA」等、30の HEYA が活動し、10のゆめの HEYA が新たに考えられている。

##### 4、次年度に取り組むこと

高齢者の安心・安全を得るための地域の果たす役割を「ゆめの HEYA」を中心に展開していく。目標は、「健康づくり」の「ゆめの HEYA」など50以上を目標にしている。